

令和2年度第1回高浜市総合教育会議 会議録

学校経営GL

定刻になりましたので、始めさせていただきます。皆さまにおかれましては、大変お忙しい中、高浜市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。それでは、ただいまから、令和2年度第1回 高浜市総合教育会議を開会させていただきます。会議に先立ちまして、市長よりごあいさつを申し上げます。

市長

みなさんこんにちは。それぞれ学校においては子どもさんたちの授業がいつ開始になるのか、夏休みはどうか、さまざまな問題を考えながら、今日発表になったと聞いておりますが、やっと新1年生の顔がみられるようになり、そんな時期を迎えられたことを本当によかったと思います。また、大変ご苦労をおかけしたと思います。教育委員の皆様方におかれましては、とりわけ磯貝先生におかれましては、大変な時期をお過ごしになるし、未だに気の抜けない状況であろうと思いますが、よろしく願いいたしたいと思います。また、それぞれ教育委員の皆様方におかれましては、ご家庭の環境が随分変わったと思いますのでそれぞれ大変な中ですね、ご苦労されていると思いますし、加藤委員におかれましては、先生が相当ご苦労されていると思います。それぞれ社会が元に戻ることを願っております。今日はそういう中での会議でございますのでできるだけ簡潔に、またしっかりと報告をすべきところは報告させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

学校経営GL

ありがとうございました。これより、議事進行を市長にお願いしたいと思います。

市長

それでは議事を進めさせていただきます。(1)学校の経営方針についてを議題とします。今日は、港小学校と南中学校の校長先生にお越しいただいておりますので、それぞれの学校の今年度力を入れて取り組んでいくことを、資料に基づき、ご報告いただきたいと思います。港小、南中の順に説明をお願いします。

港小学校長

港小学校の奥谷と申します。よろしくお願いいたします。今回私自身が35年前教員生活をスタートさせた大変思い入れのある港小学校の校長として赴任させていただき、大変うれしく思っているのと同時に責任の重さを感じております。学校経営方針を考えるにあたり、まず学校の実情をさまざまな視点から把握する必要があると思いましたので、本校の今年度の学校経営方針をご説明する前に港小学校の現状についてお話ししたいと思います。資料1をご覧ください。港小学校は昭和51年4月に開校した学校で、今年度で45周年になります。本年度は児童数が、430人。学級数は、通常学級が13学級で、5年生は3学級で、他の学年は2学級、特別支援学級が3学級の構成になっています。子どもたちは、人懐っこく素朴で素直に言われたことを確実にこなそうとする子が多いと前任校長、教職員をはじめ、地域の方々からも聞いております。私自身も35年前にいたとはいえ、今年度はまだ初日の入学式、始業式でしか子

どもの姿をじっくり見たことがなくて、学校の再開をととても待ち望んでいるところ。ただ、子どもも家庭も以前に比べて大変多様化しているなどというのは、他の学校もそうかもしれませんが、港小学校も同じような傾向です。一人親のご家庭、特別な支援を要する児童の割合が増えている。それから外国籍児童の増加があります。外国籍で多いのはブラジルが一番多いですが、フィリピン、中国、ベトナムなどの児童もおり、多国籍化しています。教職員は、常勤職員が26名で平均年齢は45.2歳です。年齢構成にやや偏りがあって、20代の職員は29歳の事務職員1人だけで、教員はすべて30代以上です。また、非常勤の職員も含めて、本年度は異動が大変少なかったのも、港小学校に在職している年数が比較的長い教職員が多いことが特徴です。また、小学校免許のみという教員が約4割、そして、中学校での勤務経験がある教員は1人だけという状況です。このような状況から港小学校の強みと課題を考えますと、経験を重ねて港小学校の子どもや家庭、地域のことをよく知っている教職員が安定した教育活動を行えているというところは強みであると思います。また、地域には、南部まちづくり協議会、港小学校おやじの会など、市内でも他の小学校区に先んじて早い時期から立ち上がった組織があつて、強力に小学校をバックアップして支えてくださっているというふうに思います。そこで、経営方針ですが、資料2枚目をご覧ください。これは、本校の教育目標や経営方針、重点目標などを保護者向けにまとめたもので、保護者には色刷りの紙でお配りしているものです。教育目標として開校当時の「未来の社会で幸せな生活をし、社会に貢献できる人間の基盤を育成する。」という言葉があるのですが、この中の「人間の基盤」というところ、具体的には、学びの姿勢、自分の健康管理とか生活習慣、人との関わり方など、基礎となる部分を小学校6年間でしっかり育成したいと考えています。私自身は昨年度まで高浜中学校にいましたが、やはり就学してからの小学校の6年間はととても大事でその上に中学校、高校と学びが積みあがっていくと実感しておりますので、小学校6年間の大切さをととても感じています。この6年間は大きな意味をもつ、子どもが成長できる時間だと思っています。その目標を実現するための経営方針として、港小学校の教育実践、重点目標があるわけですが、この経営のスローガンとして、港小学校では「元気・本気・勇気」という言葉を平成20年度から掲げています。今年度で12年目になるわけですが、この言葉は港小学校の子どもたちはもちろん、教職員にも定着している言葉です。教育にとって不易の部分である知・徳・体を小学生にもわかる言葉で表していて、定着しているのも含め対応している言葉ということで今年度もこの言葉を継続して、学校経営、学級経営に生かしていこうと考えました。ただ、言葉だけで「元気・本気・勇気」だよねという感じで定着しているというだけではなくて、そこに込められた意図だったり、その時々校長先生方の思いだったりというところを、子どもにも教職員にも改めてしっかり浸透させて、それを具体的な取組や活動として具現化して

いくことが必要だと思っています。子どもとともに教職員にも「元気・本気・勇気」な姿を目指してほしいと考えています。今年度の最初に教職員にはそのことを伝えて、改めて「元気・本気・勇気」についての思いも語りながらそれぞれで取組について考えてほしいという話をしました。その時にイメージしやすいようにキーワードとして、小学生ですのでひらがなの言葉で「しょうがっこうだいすき」という言葉を掲げました。「すき」というのは心ひかれるというような意味があって、「元気・本気・勇気」のもとになるものでもあるし、また、「元気・本気・勇気」という活動の先にあるものでもあると思っています。資料の下に示した表に、期待される姿がまとめてあります。「元気」というのは、単に運動をたくさんするとか、体力が向上するとかということだけではなくて、心や体の健康というふうに考えます。そのためには、毎日の生活習慣や心の安定、それからさまざまな活動に耐えうる体力や気力、そして落ち着いて安心して過ごせる学習環境、生活環境が必要だと考えています。そういう中で過ごせる子どもたちの姿が「元気」であり、そのイメージとして「にこにこ」という言葉をここで使っています。子どもの笑顔、先生方の笑顔が「元気」を表すと思っています。「本気」は、学びや活動に向かう意欲がスタートになります。授業では子どもが「おもしろそう、楽しそう」とか、「やりたい」とか、「知りたい」とか、さらにそれを「話したい、誰かに伝えたい」という気持ちを引き出す工夫をしていきたいと思っています。そのために、教師は、子ども一人一人を特別な支援を必要とする子たちが増えているという話もしましたが、支援が必要であるなしに関わらず、一人一人子どもは違いますので一人一人を多角的に捉えてそれぞれに合ったやり方でその子が学びに向かう気持ちを引き出したい、支えていってほしいと考えています。先生方も「こういう授業づくりをしたい」とか、「こういうふうにしたら楽しいのではないか」という、自分の授業づくり、自分の学級づくりに対する本気度が上がっていくなどと思っています。このような子どもや先生方の「本気」の姿を「わくわく」という言葉で表しています。最後に「勇気」ですが、勇気というのは道徳的な価値に基づいた正しい行いということも含まれるのですが、それよりももっと広く人との関わりとか、関わりつつ他者を認める、自分の良さも認めるという人間関係づくりを目指しています。そのために、あいざつや言葉遣いであったり、行事で協力することであったり、自分でやりきった達成感であったりを育むことを目指して様々な活動を行っていきます。先生方も同じで教師であると同時に一社会人、大人としてふさわしい人になる、他の先生方と関わりながらやりがいをもって取り組んでいくことを通して先生方の自己実現も図っていくという意味で目指す姿を「きらきら」という言葉で表わしています。学校では、本当にいろんな活動をしています、目指すところは「元気・本気・勇気」ということを意識して実践していくことを先生方にもお願いしていきたいと考えています。今年度はまだ船出ができておらず、私自身も校内を回りながらいろ

いる思いを巡らしたり考えたりしていることはあっても、子どもが目の前にいないので現実味というか実感をもって今ここでお話しできない部分もあるのですが、今のコロナ対応も含めて安全安心が一番の土台ですので、その土台の上に子どもも教職員もにこにこする笑顔、わくわくする気持ち、そして、きらきらする姿になれるといいな、そういう学校を目指したいなと思っています。次に報告する機会を2月にいただいておりますので、そこでたくさんの具体的な報告ができたかと考えております。以上です。ありがとうございました。

市 長
南中学校長

引き続き、南中学校お願いします。

よろしく申し上げます。南中学校の清水美智男と申します。本校は、港小学校卒業生のほぼ全員、高取小学校の卒業生の7～8割、高浜小学校から3割程度の3校から入学してくる生徒で成り立っております。小学校でそれぞれ学んできたことをもとに中学校でさらに成長していくことを願って日々の教育活動を行っていくわけですが、本校の使命としてここ数年掲げているのは、「自立した大人になるための基礎づくり」というものです。昨年度までは、自立というものを将来の自立した大人、経済的、精神的と捉えていたふしがあるのですが、今年度からここに学びの自立というものを加えて考えていこうということを提起いたしました。ちょうど今コロナウィルスで学校に来られないと、その時に生徒たちは自分たちで課題を見つけて、やりたいことを見つけて学びをしているかという、これ学校が再開したらアンケートをとってみようと思っているのですが、そこに実態が現れてくるのではないかと考えております。なかなか教科の学習に限らず、自分で興味のあること、やりたいこと、追及したいことを見つけて、それに向かって活動していくという姿は育てるのが難しいと思うのですが、将来的にはそういった大人になって欲しいなということを考えております。ただ、職員にも話をしたのですが、自立というどうしても自分自身、自分一人というふうなイメージを持つかもしれませんが、そうではないよと。他者と相互に関係を持ちながら自分を実現していく姿を自立と考えましょうねというふうに言いました。他者と相互に関係を持つということは学校でなければ出来ないことなので、学校だからこそ出来ることを通して大人になった時も自分一人でなんとかやってやろうとそういう精神も大事だと思うのですが、そうではなくて自分の周りの他者に働きかけながら、時には頼りながら時には助けながら自分自身を完成していく、そんな大人になって欲しいと考えております。使命としてはそういったことになるわけですが、今年度の経営展望としては、「南中文化の向上」ということを掲げました。自分が南中学校に教頭として2年間勤めさせていただいて今年度より校長になったわけですがけれども、2年前に来た時に南中学校というのはある程度やるべきことがはっきりしている学校だなということを感じました。それに対する指導も生徒自身の振る舞いもある意味完成されているということを感じました。ですが、細かく見ていくと質の面でまだまだ上を目指せ

るところがあるのではないかと感じましたので、南中がこれまで培ってきた良さを生かしながら向上させていこうということでこのように経営展望を掲げております。いずれにしても、生徒と教師だけではなくて、南中の財産である学校に協力的な南中学区の地域文化を基盤にという前提がないとこれが出て来ないというふうに考えております。学校だけが一生懸命になってもなかなか難しいのですが、幸いなことに南中学区というのはまち協さんをはじめ、いろいろな支援を得ることが出来ていますので、そういった財産を生かしながら南中の文化を向上していきたいと考えております。ただ、ここに生徒文化、教師文化とありますが、今年度については危機的な状況にあります。例えば生徒文化を高めていこうといったときに主に学校行事があるわけですが、その学校行事ができるかどうかということも苦しいですし、教師文化、先生同士の学び合いですとか、授業研究は非常に盛んに熱心に行われてきたところがあるのですが、学習内容をなんとかこなしていくというふうになった時に、ゆっくり時間をかけてということは今年ではできかねるかなということは考えております。ただ、それを逆手にとって精選するだとか本質をしっかりと見極めてやっていければ実情としてはこの状態であっても質の向上につながっていくのではないかと考えております。続いて、学校経営の4本の軸についてですが、囲みの中に「自立した大人になるために」中学校3年間で身につけさせたい力ですとか資質を(1)から(3)まで書かせていただきました。学ぶ力、社会性、体力と精神力。これを培うことで自立した大人に向かってほしいと思うわけですが、そのために学校で先生たちはどのように①から④まで4つの軸を立てさせていただいております。まず何を置いても授業力を高めないと将来の自立した学びにつながらないと思います。自立した学びというのは、教科の内容を深く理解するとかではなくて、学んだこと、学ぶ過程における達成感、充実感を感じることが大事ななというふうに思っております。自分でやってきたことが「目に見えた形で形になったな」と「やった」とか「わかった」とか、そういう経験。正解だとかそういったことを求めるのではなくて、そういった充実感を感じさせることが将来別なものを見た時にこれちょっと挑戦するとあの時に味わった充実感や満足感得られるのではないかなとそういう意識につながっていってくればいいかなと思います。次に、先生たちには学級経営力を高めていきたいと思いますということを言っております。最初に自立のところでお話をしましたが、学校だからできる他者と相互に関係を持つということについては、学級が母体になりますので学級を運営していく力、引っ張っていく力、見守る力、そういったものを育てていきたいというふうに考えております。3番目で集団の中で課題を発見し解決する力をつけさせる教師の力量を高めていく必要があると考えております。これは先ほど危機的な状況というふうにお話したわけですが、本年度行事は当然なのですが、今までどうしても生徒会の室長、副室長、学級役員といった子が

中心になって考えてきたのですが、そうではなくてもっと広く委員会の常時活動ですとか、学級の係活動ですとか、そうした中でも課題を発見し解決する力をつけることができると思うし、それをつけさせてあげるために普段やっていることも大事にしていきましょうねということをお話しております。最後が、学校に協力的な南中学区の地域文化ということをお話しましたが、より与えられるだけではなくて生徒のほうからも教師も意識を持って地域の一員としての南中生という意識を育てて活動していけたらいいなというふうに考えております。以上が学校経営の4本の軸になります。裏面をご覧ください。めざす教師像・教師集団像ということで謳わせていただいておりますが、簡単に言うと、南中にずっと引き継がれてきたことなのですが、生徒ファースト、保護者ファーストでいまいましょうねということに尽きると思います。先生の都合、学校の都合で物事を考えないようにしましょうねということがこうした言葉になっております。次に、教育目標ですが、校訓が「自己を高めよう」ですので、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てていくということです。4. 教育目標、5. めざす生徒像、6. 経営方針とありますが、ここに書いてあることについては、生徒にも示していることです。南中ノートというもの、小学校でいうと連絡帳になるわけですが、毎日使っております。その表紙にこの4. 5. 6. については記載して生徒が目につくように折に触れてここについて振り返ることができるようにというふうに考えております。目指す生徒像が昨年までは「人のために一生懸命やるってカッコいい」でしたが、今年度は本校の使命の自立ということをお前に出して考えましたので、「将来を見据え、今の自分を作り上げていく生徒」というふうに変えました。昨年度までは「人のために一生懸命やるってカッコいい」ということで、今の自分の姿が前面に出ていましたが、もう少しスパンを長くみて今の自分が将来にどうつながっていくかということをお意識させたいと考えております。具体的にはどのような事が出来るかということ、学び、生活、心と体ということで生徒にわかりやすい言葉で謳っております。先ほどの自立に関することなのですが、今年度生徒に入学式は1年生の前で話が出来たのですが、その時に「自己を高めよう」ということについて話をしたのですが、2年生3年生は残念ながら体育館に入れませんでしたので、校内放送で始業式の代わりをしました。その時に、あなたたちに期待する事ということで一つだけ話をさせて下さいねということでお話したのは、全校集会とか学年集会とか体育館に集まって何かやるとか、運動場に集まって何かやるといった時に、先生が廊下に並べて先生が引率して体育館の中では先生が前に立って整列させてというような姿がみられたのですが、あなたたち中学生なのだからそれは無しにしましょうよと。○月○日の○時に全校集会がありますよと言ったら、先生たちは体育館で待っていますと。その代わり室長さんはみんなに声をかけて並んで来て下さいね。3月終わりになった時にそれができるように

なってくればそれでいいですよというような話をしました。自立ということに関わってきますし、集団としてもそういったことができるような姿が一つのバロメータになるかなと思ってそういったことを中心に学年にも各担任にもこれでやってねというふうにしてあります。が、残念ながら集会はまだ一回も出来ておりません。いつ集会が出来るかというところが悩ましいところでもあります。生徒には具体的にはこういうことができるようになるのが自立した姿だからねということで話をしました。重点努力目標については昨年までと大きくは変わっていません。下線を引いたところについては主に文言が細かいところで変わっております。重点努力目標の5番6番7番ですが、昨年度通級教室を開設していただき、本年度日本語教室を2クラス開設していただくことが出来ましたのでそういった弱い生徒というか疎外感を持った生徒に寄り添った教育を特にやっていこうねということ、それから7番の多忙化解消については、至上命題ですのでこれについては先生たち自身の力で何を削ったらいいいのか、何を効率化できればいいのかということを考えてやっていきましょうねということで去年から取り組んできております。以上です。ありがとうございました。

市長

ありがとうございました。それでは、両学校のお話を聞いて何かご質問等があればお願いします。

教育長

お二人の新任校長さんですが、一人は中学校から小学校へ、一人はそのままということで、今年度ももの凄く意気込みを持ってそれぞれ赴任されたけれども肩透かし状態になったと思います。今皆さんの経営方針を聞いて本当にこの通り出来たらすごい学校になるだろうなと思います。自分も小学校中学校の校長をした経験で思うわけですが、校長の理念、方針を実現するために一番の方策は教員を育てることだと思います。校長一人の力ではできないので校長の思いを自分の思いと思って子どもたちと対峙してくれる先生方を育てる、そのことが一番大事かなということをご改めて言っておきたいと思います。それから、いずれも知・徳・体ということを使っていच्छるのでとてもいいなと思っています。今コロナウィルス対策の事で文科省もマスコミもオンライン、オンラインと言っていますが、学校が始まったら徳のほうを、あるいは清水さんがおっしゃったような集団との関わり、関係性、そういうところを学校は何のためにあるのか、勉強だけをするところだったら本当にオンラインでいいわけですけど、学校でなくてはできないところをきちんと子どもたちにやらせていただきたいなと思ってます。それは皆さんの方針を聞いて思ったことですし、是非そうして欲しいなと思います。具体的にお聞きしたいのは、奥谷先生には今自主登校教室でどのような背景を持った人たちが来ていますか。また、港小学校には何人くらいのお子さんたちが来て、子どもの表情はどうでしょうか。

港小学校長

自主登校教室は児童クラブから来ている子たちなのですが人数としては日

によって違いますが、連休明けは5、6人来ています。あの子たちは家に閉じこもらずに済んでいるので学校に来る事はすごく楽しそうですし、午前中は離れて座って勉強ねということで課題だったりとかをやりつつ、午後は掃除をやらせたりとか外で遊んだりとか、そういうふうで9時から3時まで過ごしているの、ずっと家に閉じこもっているということがない分だけ表情は豊かかなと思います。

教 育 長

そうですね。私も児童センターのことがよくわかるので家にいる子よりいいだろうなと思います。また、運動場の開放をお願いしましたが、港小は何人くらい来ていますか。

港小学校長

運動場へは10人くらいです。自分でボールを持ってきて遊んだりとか、遊具で遊んだりとかしています。

教 育 長

親子連れはいますか。

港小学校長

一緒に連れてきて、一緒に遊ぶというかそこで待っているというのがあります。トヨタ系が休みの時は一緒にサッカーとかやっています。

教 育 長

南中は春休みの時の開放よりもはるかに賑わっているとお聞きしましたが、今でもそうですか。

南中学校長

今日は若干少ないかなと思いましたが、先週でいうと30~40人。1人だけ保護者が来て子どもたちのグループに入って遊んでくれています。また、部活単位で結構声を掛け合って来ています。

教 育 長

これで再開の方針が出たので、校長さんの手腕を発揮すべく手ぐすね引いて頑張っていたきたいなと思います。

市 長

確かに学力のことだけがクローズアップされて大きい問題になって、そうした問題は整理していくつもりでございますが、新1年生ですね。小学校と中学校では若干違うのかなと思いますが、中学校は先ほどあったように部活単位で上級生と関わっていくことで、自分たちの経験からしても小学校ではない学校で過ごすときの自分の居場所、人間関係ができてくる。1年のこの最初の所が抜けるというのは非常にそこは大きいかなと思いますし、小学校では幼稚園、保育園から上がってくるとクラスを組織として先生がみるみたいなことになりますので、その部分で保育園・幼稚園の延長から抜けるようなその最初の期間がないというのは大変じゃないかなと思うのですが、そこをどう補っていくのでしょうか。

港小学校長

クラスを、組織として先生がみるわけですが、その中でも一人一人をしっかりとみています。気になる子の場合はサポートに入って下さるサポーターやアシスタントの先生もいらっしゃいますので、そういう複数の大人の手を借りつつ、どの程度できるかわかりませんが、密にならないように考えつつ、最初は6年生の世話係とか、掃除も本校は縦割でやっていますので、密とか手洗いとかその辺を配慮して共通理解して、異学年との接点とかそういうのをつくりつつ、小学校の生活に慣れさせていければと思っています。

す。

市長

中学校はグラウンド使うといってもクラブ単位になるとか、3つの学校から来てますしね。心配するのはそこで間違えると不登校、引きこもりになるとか、行かなくてもいいなら、今までも休めてたから行きたくないなという、そんな雰囲気が出てくることを危惧するのですが、いかがでしょうか。

南中学校長

小学校はなかなか難しいと思うのですが、中学校で2分の1登校を考えていく時に、名簿を奇数偶数に分けて1日置きというようなことでやると時間割上も非常に都合がいいのですが、そうすると、担任は半分の生徒を相手にして次に半分の生徒を相手にして、その半分同士がわからないままたった1週間か10日間ぐらいの話なのですが、また一緒になるというのはどうなのだろうという話を学校でしまして、奇数クラス、偶数クラスにして教室は2つに分かれるけども同じ時間の同じ学校にひとつのクラスとして存在しているよと。隣のクラスを覗くと同じクラスの半分が居るよと。先生の都合を優先せず、そういう状況を作ってあげようということで本校はやっていくことにしました。半分ずつで過ごして、半分ずつの人間関係ができてしまった中で、また一緒になって仲良くなろうねというのは、ちょっと先生の都合が優先し過ぎてないということを考えたので苦しいけどもそれで頑張っただけということにしました。2年生3年生については不登校傾向だとか学校嫌いの子がいる中で配慮して学級編制していますが、半分にしたことによってそれがなくなって不登校傾向にある子がしゃべる子がなくて寂しいといって次から学校来れなくなったら本末転倒でしょうという話で南中にとってのこだわりといったら始まるまではこれでやっていきたいなと思います。

市長

確かに中学校になるとクラスの力は小学校よりそんな感じになりますね。ありがとうございます。他にどうでしょうか。

後藤委員

中学校でリーダーを育てるってすごくいい言葉で、本当にたくさんの子どもがリーダーになる機会があることが理想で、同じ子が目立つのも当然だし、ただリーダーを受けたがためにリーダーがしっかりしてないという叱りを受けるということも子どもから聞いたことがあるので、リーダーなのにやっていないとかそういうふうに言われるのも子どももリーダーになる気が失せるという、そういう思いを聞いていたので、たくさんの子がリーダーになれて周りにいる子もリーダーを支えるような流れに子どもたちが育つといいなと思っています。

南中学校長

学級経営力向上の2番目のポチで謳わせていただいたのですが、リーダーと同じくらい大事にしていきたいのはフォロワー、リーダーを支える子どもです。全員がリーダーになれるとは思ってないし、そういう資質がある子もいればそうでない子もいるし、たまたまリーダーの資質がない中でリ

ーダーにされてしまうこともあるので、いろんなリーダーがあるのですが支えていくのだというそういう意識をしっかりと育てていかないと、今おっしゃられたとおり、リーダーになったけれども責任ばかり押し付けられてということになるので、そういった内容にしていきたいと考えております。

市長

他に何かございますか。他にないようですので、両校長先生、本日はご出席いただきましてありがとうございます。

市長

続きまして、「(2) 新型コロナウイルスの対応について」を議題とします。事務局から説明をお願いします。

学校経営G主幹

本来であれば、6月1日の学校再開を目指して準備を進めてきていたところですが、県教育委員会からの要請もあって高浜であるとか、近隣の感染状況も踏まえながら、教育委員会として5月25日からの学校再開を決定して今準備を進めているところがあります。資料3の表を使って説明をさせていただきます。5月7日から学校休業期間延長という形で続いているのですが、現在、学校再開準備期間というところにこれから入っていきます。子どもたちは3月から3ヶ月間くらい実際学校を休んでいます。そういった子どもたちが学校生活のリズムを取り戻す。そして、学校生活の規則やルールみたいなものを改めて確認をしていく。そういうような指導も考えながら、当初は分散して登校をするという形をとらせていただきたいと思います。具体的には、18日から20日まで、この中に個別登校日というものを1回設定します。これは、各校によって違いはありますが、大きく時間帯を区切って、例えば9時から9時半の間に名簿番号の〇番から〇番の子が来るといような形で登校してもらう。もちろん保護者と一緒に来ていただいてもいいし、保護者が来ていただいてもいいという、そういうルールになっています。そういったものを3日のうちにやる。そして、21日、22日につきましては、学級をおおよそ2分割して、21日に登校、22日は家庭学習の日、これを入れ替えて21日は家庭学習、22日に登校をすると、1日2時間の授業で登校を始めていきます。週が明けた後も、その分散登校を25日、26日、それから27日、28日の2セットで3時間の授業になります。そして、いよいよ29日は2分の1ではなく、通常の登校を予定しているところです。ただし、授業については午前中のみという形です。週が明けた6月1日からはいよいよ普通に登校をして通常の授業を受ける。給食も始まっていきます。このような形で少しずつ子どもたちが学校生活のリズムを取り戻して学校生活に慣れていくように進めていきたいと思っております。資料をめくっていただきますと学校あての依頼文書、それから3枚目にありますものが保護者のほうへ周知をする文書になっています。この後、こちらのほうを学校から保護者に流していただくというように予定であります。いろいろ学校が始まると心配な点が多々ありますが、現状可能な限り感染の予防であるとか拡大を防ぐよ

うな手立てをとりながら進めてまいりたいと思います。説明は以上となります。よろしく願いいたします。

市長
学校経営G主幹

夏季休業期間中の登校日となるのですね。

夏休みは8月8日から8月23日というふうに今回は決めましたので、それに合わせると夏休み期間ではないのですが、例年の夏休みになっておるところで出ていただくという表現になっています。

市長

他になければ、今日はその他ということで、ライズ株式会社さんにお越しいただいていますので、eライブラリアドバンスを紹介していただきたいと思います。

ライズ株式会社
市長

(eライブラリアドバンスの紹介)

どうもありがとうございました。最後に、GIGAスクール構想についてですが、今後3年間で3人に1人というスケジュールだったのですが、1年間で1人1台ということで9倍のスピードに変わりました。高浜市としてもついていけないのですが、なんとかしようと考えています。LTE方式といって携帯電話のように通信会社と契約して通信料を払うということで学校内のw i - f i環境は整備をしないということで学校内には充電用のキャビネットを全学年の全クラスに置いて電源が足りないということで電源を強化しようという話がありましたが、順番に充電をすとか家で充電をすとか、全部を一遍に充電をすることなしに考えていくということで、まだ予算はついていませんが、そんな方向性を考えています。本市の場合は、w i - f i環境がないので全部LTEでやったほうが、わざわざw i - f iを引かなくてもいいのではないかとということで、全部LTEでやらしていただいて、ソフトの更新等は、w i - f i環境がないといけないということでパソコン教室がありますので、そこを使います。パソコン教室の機器の整備については、w i - f i環境以外はやらないということでOSの更新等はやらなくなります。問題は非常にお金がかかるものですから国会議員さんにもお願いして、このスピードについていけるかどうかは大問題なのですね。国は羽生田大臣が何回も言っていますが、今年度中に児童生徒に全子どもに、お金は地方財政措置をしてあると言っておりますけど、本市はいただいていません。それを全部国の責任においてやるべきということを行ったのですが、愛知県市長会も機会をみてとかそういうトーンなものですから、議会にお願いをしてやっていかざるを得ないということで整備を進めていく予定であります。

学校経営GL

次の開催予定ですが、10月22日木曜日の午後2時半からいきいき広場1階会議室Aで行います。

市長

今日も熱心にご議論いただきましてありがとうございました。以上をもちまして、令和2年度第1回高浜市総合教育会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。